

もっといきいき健康に！地域がつながる医療と介護を目指して

帰巖会

ご自由に
お持ち帰りください

かわら版

2023.9.1
September
vol. 87



白山川にて（豊後大野市）
直耕団吉野診療所 所長 中野俊彦

コンテンツ

巻頭言

帰巖会のこれから …… 2

臼杵病院通所リハビリテーションセンターにおける現状と、今後の展望 …… 3

櫻～たすき～（有）竹巧彩 …… 3

うすきの歴史③ …… 4

インフォメーション／時事寸感 …… 4

言 / 頭 / 卷

ごあいさつ

社会医療法人帰巖会理事長

松山 幸弘



観測史上最高に暑かった夏の盛りが漸く過ぎていこうとしております。今年は北日本や北海道が連日30℃以上の真夏日を記録し九州よりも暑いという不思議な現象が観測されてきました。そして暑さとともに到来したCOVID-19の第9波のピークも超えた感があります。しかしながら、私が担当している外来では早くもというか季節感を失ったインフルエンザウイルス罹患者を複数人診療するという最早従来通りの定石が意味をなさない世の中となりつつあるのを実感する毎日でした。

先日、母の喜寿を祝うために兄弟それぞれで家族で都合のついた者が泊りがけで集まりました。久しぶりに家族での小旅行でした。特別に何かをしたというわけではないのですが、皆で夕食を食べてゲームに興じ、他愛のない話で盛り上がり、湯につかって朝食を食べるまで解散する。なかなか一堂に集まる事が出来なかった数年を経て見る皆の笑顔は感慨深いものでした。とりわけ娘は家族が多くいるということが嬉しいようで普段は見かけない顔で笑っていたのが印象的でした。人と人が直に逢って見つめあうこと、触れ合うこと、話をする事でお互いに心と身体に少し良い影響があるのだと改めて感じた夏の終わりでした。

帰巖会のこれから

帰巖会副理事長 首藤 治

この7月より、社会医療法人帰巖会副理事長職を拝命しました。私、縁あって帰巖会に来て早や8年たちますが、帰巖会のミッション、社会的使命というものは全く揺らぐこと無く脈々と受け継がれていると感じています。急性期から慢性期介護援助に至るまで、地域の人々に必要な医療と社会的援助を提供し、その健康と生活を支え続けるという役割は揺らぐことなく堅持されています。ハー

ド面においては、みえ病院において2019年から続いてきた透析棟新築やER救急室、内視鏡室増築などの病院改装とそれに伴う老健移築といった大工事も一段落し、これら設備機能をフルに生かした診療が始まっています。

ここで振り返ってみえ病院の位置する豊後大野市を見れば、人口は10年前の42000人から32000人にまで1万人近く急減し、65歳以上の高齢者比率も45%となっています。また白杵病院の位置する地域においては不足する医療介護資源の中で都市部における高齢者の孤立化が進んでいます。今日、マスクミなどで言われるようになった高齢者の孤立と多死社会、つまり都市部郡部を問わず急速に進む高齢化と国全体で起きている年80万人以上の人口減少の影響

はまさに今ここで、我々の生きる地域です。ここで起きている現実として認識されるようになりました。

このような中で、あらためて帰巖会の地域社会における役割とは何でしょうか？高齢化と地域の中での独居老人世帯の急増、さらに老老介護で肩を寄せ合って暮らす老夫婦世帯の増加とその生活の困難さなどもあり、もはや問題は病院などの施設の中だけで完結できるものではなく、一人一人の患者さんの社会的背景を踏まえて適切な援助と支援を伴ったものでなければなりません。この社会的要請に応えるために、私達帰巖会職員は全法人一体となって救急医療から在宅までの流れの円滑化を目指して、病院の高度医療機能のみならず訪問診療及び訪問看護、訪問リハビリを含めた地域密着型リハビリ体制などを整備して参りました。こうした急性期医療から慢性期医療、充実したりハビリ体制、そして在宅、認知症対応可能な施設も含めた老人ホームなどの施設と人員整備を通して、切れ目のない医療、介護、福祉の包括的サービス展開こそが地域の皆さんに真に求められる帰巖会のあるべき姿であると考えています。

今、コロナ感染症が5類に移行して、

もうコロナは終わったかのように世の中は動いていますが、ウイルスはそんな人間の都合に関わりなく感染力も毒性も衰えること無く変異を繰り返して増殖し伝染して社会に影響を広げています。人間がいかに振る舞おうとウイルスはそんな人間の都合に関係なく活動を続けているのです。帰巖会においては患者さん利用者さんの命と健康を守るためにこれからも万全の感染対策で臨んでいきます。

これからもこれらの取り組みの中で豊後大野、白杵のそれぞれで地域社会のため、高齢者も若者も、社会的弱者と言われる人々も、皆が安心して暮らしていけるように、そして「生きていくだけで、それだけで尊い」そう思える地域社会を築いていく、そのいくつもの試みの拠点、礎と呼べる様な存在に私達はなりたいと願っています。



白杵病院通所リハビリテーションセンターにおける現状と、今後の展望

白杵病院 通所リハビリテーションセンター 副主任 平山 正博

白杵病院通所リハビリテーションの現状

白杵病院通所リハビリテーションセンター開設時は、利用者数10名からの開始となりました。開設から6年が経過し白杵病院通所リハビリテーションは、地域の方々に徐々に認知され年々利用者も増加してきました。開設から1年後には約40名、3年後は75名、現在（R5年8月）では、125名の利用者となっております。その内訳は、要支援者と要介護者で半々となっております。地域で見ると、白杵市の利用者が全体の96%、津久見市の利用者が4%となっております。



開設に至った背景

白杵市の特徴として通所系のサービス事業所が少なく、また既存の通所リハビリや通所介護は長時間のサービスを提供する事業所しかありませんでした。通所での長時間の滞在・入浴サービス等が必要とせず、リハビリテーションのみを希望される方には利用が難しいという現状がありました。その問題を解決すべく、短時間での通所リハビリテーションサービスを開始することとなりました。

白杵病院通所リハの特徴

当院での短時間での通所リハビリテーションサービスは、利用者に対し1時間以上2時間未満での時間のサービスと

なっています。

内容としては療法士によるリハビリテーションが中心で、個別リハ（概ね30分程度）・マシントレーニング・物理療法（電気治療等）・生活動作指導・自主トレーニング及びホームエクササイズ等の指導を行っています。在宅生活をより安心・安全に送っていただけるよう、個別リハの時間を多くとることで、利用者の問題点や悩みなどに対応できるよう取り組んでいます。併せて、ケアマネージャーや他のサービス機関との連携も早急に行い在宅生活の継続に努めています。



年々利用希望者が増加している現状に対応できるように、今年度よりリハ職員を1名増員しました。白杵市内はもちろん遠方でもリハビリテーションの希望（必要と）されている方へは対応したいと考えています。現在では津久見市からの利用の問い合わせも増えてきており対応を行っています。

職員一同、利用される皆様が少しでも長く住み慣れた地域で安心・安全に生活が送れるよう支援していきます。在宅での悩みや不安、リハビリテーションに興味がある方は是非ご相談ください。



響

白杵編
File 5

人から人へ響で繋がっていく

(有)竹巧彩 クリエイター 毛利雄造さん

尺八との出会い……

制作に向き合うなか尺八との出会いは新鮮なひらめきをもたらします。職業も生活拠点も様々な尺八の仲間と集いその美しい音色を奏でます。無理をお願いし、尺八を聴かせて頂きました。自然界の竹から生まれる音色が広がり染み入ります。11月下旬にはコンパルホールで和楽器のコラボで演奏会を予定しているそうです。足を運んでみてはいかがでしょうか。



竹の精に導かれ

小窓から竹の笹が揺れ、竹の精に守られている毛利家を感じました。静かな空間に強烈な作品群。佐志生で竹と生きる人生はずっと前から決まっていたのでしょうか。これからも「年齢や性別、既成概念にとらわれず発信、探求」を続けていく毛利雄造さん。若きリーダーです。（取材 帰巖会 橋本 茂子）

ギャラリーのご案内

有限会社「竹巧彩」CHIKUKOUSAI
〒875-0001 大分県白杵市佐志生2091-1
電話番号：0972-68-3117
HP：https://chikukousai.com/retail-shop/
営業時間：8：30～17：00（事前確認をお勧めします）
休業日：土曜・日曜・祝日

今月は白杵市佐志生で竹細工工房「竹巧彩」とギャラリー「彩佐」でクリエイターを務める毛利雄造さんを訪ねました。

毛利家三代目へ引き継ぐ魂

「父が竹を編む姿は日常の風景でした。」高校卒業後の進学・就職は東京へ。両親は将来について何も言わず見送ってくれました。20代後半、都会での基盤も固まり安定した生活。ふと自分の腹の中心を覗くと「創作」という思いが横たわっていました。白杵市佐志生へ戻ると父母や祖母と一緒に竹に向き合う日が始まります。「師匠でもあるお父様から指導や叱責などありますか？」と何うと「わからないところを聞くと教えてくれますので・・・」と、全く力みがない毛利さんです。強さと繊細な作品を生み出すその指は、しゅーっと伸びて、苦悩を見せません。



クリエイター毛利雄造氏

ギャラリーには1点物の竹コゴバックや花器、食器、生活用品に加え光を彩るシェードが天井から人々を照らしています。また、絹や麻、綿など上質な天然素材で丁寧に縫製された衣服が展示されています。1着にふさわしいアクセサリーも愛くるしく呼吸を感じる作品の数々です。



江無田 戸室地区

大友氏の重臣 臼杵長景の墓

江無田の台地西端の丸尾にある。墓石に、「堅心院殿悟明宗円大居士」大永七年(一五二七)とある。長景は大友義長・義鑑の代に重臣として活躍。水ヶ城を築いた人。興廃記等に、佐伯惟治の反乱鎮圧に功を挙げたが、惟治の怨霊のため急死したとある。

長景の子たちも、戸次鑑連(立花道雪)や吉弘鑑理と共に大友氏の「三老」にまで列せられた。臼杵氏は大友徐国後、肥後に移った者が多い。臼杵に留まった鑑宗(鑑速の兄)の子孫は現在、臼杵におられる。台地には石造物が点在する。



写真は臼杵長景の墓。臼杵氏は野津や熊本県に多く在住。

臼杵氏の館と墓地

十六天神から田篠台へ約百m上り左側。台地東端部のこの一帯を桜馬場という。臼杵氏の初代時直と七代鑑速(長景の子)の墓がある。時直の墓碑に、元徳二年(一三三〇)と刻字されている。鑑速は、大友本家の重臣の一人として大いに活躍。墓石には、江戸時代の子孫代々の名が連書されている。

臼杵氏：「臼杵姓」を名乗った大神系豪族。大友氏二代親秀の次男重秀が、大神系戸次氏に入り、戸次氏五代貞直の時、子の時直が「臼杵姓」を継いで大友系臼杵氏が確立した。鑑速の子統景は、天正

六年(一五七八)、十八歳のとき、叔父の臼杵鎮統と、耳川の戦いで共に討死。その供養塔も傍に近年建てられた。西南戦争激戦地だったため、墓石は荒れたままになっている。

写真は臼杵時直の墓(上)、臼杵鑑速の墓(下) 両雄並んで建つ。場所は田篠台。



報恩記念碑から、功績人徳を知る

江無田橋から十六天神への踏切の脇にある。「佐藤伊左五郎氏(一八五八―一九二〇)報恩記念碑」は、亀甲積みみの石垣をモチーフとし、基壇に実物大の牛が乗る。また、江無田橋の傍には、「油野虎蔵(一八五八―一九二五)の記念碑」がある。「佐藤伊左五郎」：江無田の人。朝鮮半島からの牛の輸入増進のため、半島各地を歩き、苦勞して経路を確保した。日本での販売も担当した。見事な牛の像は、地元石工の佐藤秀五郎が彫った。「油野虎蔵」：井村の人。工才に優れ、江無田橋の傍に居を構え(画家油野精一氏は虎蔵の孫)桶屋を業とし昼夜精励。教えを請う者は多数。碑には一五人の弟子の名が刻まれている。



記念碑・佐藤伊左五郎氏(上)と油野虎蔵氏(下)

地域子育て支援拠点 よいこのへや

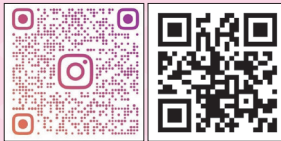
インフォメーション information

2008年に開設した「よいこのへや」は、臼津地域シルバー人材センターが臼杵市から委託を受けて運営している子育て支援センターです。

親子で楽しめるイベントに加え、親の学びのプログラム(無料託児付)も積極的に実施しています。また、予約不要で一時預かりが可能なので、ママの通院やリフレッシュのために気軽に子どもを預けることができると、利用者の皆さんに大変喜ばれています(*^^)v

★今年9月より港町→江無田(アニマードとENEOSの間) 移転予定です★

- ▶対象：未就学児とその保護者
- ▶日時：月～金、第3日曜(土・祝除く) 9時～16時
- ▶料金：親子での利用は無料 一時預かり1時間300円/人(予約不要)



↑活動の様子はこちら



時事寸感

福島原発の処理水(中国では汚染水と呼ぶ)の海洋放出の日が近づいている。中国等は、重大な海洋汚染でないかと主張している。日本政府はIAEAのお墨付きもあるし、年間たつた22兆ベクレルの放出に過ぎず、中国の稼働中の原発から放出しているトリチウムレベルの何倍も(何十倍も)多い。それに海水で徹底して希釈するから安全で、課題は風評被害だけと主張している。勉強不足で自信はないが、調べてみると、福島第一原発は事故前の2010年時点では、2.2兆ベクレルを放出していたという。22兆はその10倍なので多いように見えるが、これでも国際基準以下らしい。そもそも、あんなに沢山のタンクに仰々しく溜め込んでおけるのだから、外に出しては危ないものと思うのが自然で、満タンになったので流すといわれても、普通気色が悪い。と言っても直近では860兆ベクレルも溜まっていて、更に毎日増え続けているのだから、放つてもおけない。どの道文句は出ることだ。この際22兆などケチをなすのは言わず、中国の間分くらを、薄められさるだけ薄めて、放出すればどうかとさると思う。トリチウムは半減期は12年というから、50年も経ていば、どうせ誰も憶えていないにきまつてい

(帰巖会副理事長 榎本 祥文)